

本年度の重点に対する評価

本年度の重点	1	○学習指導の充実…「確かな学力の定着」への取り組み
目標（評価規準）	「主体的・対話的で深い学び」の視点から授業改善を図り、確かな学力の向上につなげる。	
重点に係る現状 設定理由	指導と評価の一体化を意識することで、児童主体の授業が増えてきている。さらに、児童に育てたい資質能力を明確にし、「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善を図るとともに、ICT機器の活用により、個別最適な学びと協働的な学びを一体的に充実し、確かな学力の向上につなげていく。	

評価資料	評 価
教職員アンケート結果 (具体的方策ごと)	A～Dの4段階で評定したアンケートでは、ほとんどの教員がB評価を選択していて、A評価も数名みられる。「主体的・対話的で深い学び」の視点から授業を改善していこうとする意欲が生まれてきている。ICT機器の活用に関しては、その分野に長けている教員から積極的に学んでいるが、個人差が大きいのが現状である。
各アンケート等の結果	保護者アンケートでは、基礎・基本充実の取組に関する設問においてA Bの計が9割を越え、今年度は97%（A評定は66%）に達した。「確かな学力」の土台となる基礎・基本充実に関して、安定して高評価をいただいている。
自己評価結果 (見解と改善方策)	<p>指導と評価の一体化に関して適宜情報発信し、教職員の意識改革を図るとともに、年間を通して日常的に管理職が授業を参観し指導・助言に努めてきた。また、全教員が研究授業を行ったり、講師や指導主事を招聘しての研究会を行ったりするなど、研究推進委員会を中心に組織的に授業改善を図ることができた。また、昨年度に引き続き公開研修会を開催した。さらに今年度は、三浦市内他校の教員のみならず、横須賀市にも幅を拡げ、多くの教員を招いてご意見をいただくことができた。多面的・多角的な意見をうかがうことで、研究の質を高めることができた。</p> <p>児童の吸収力の高さから、タブレット活用が急速に進んでいる。いろいろな場面で使用し頻度を高める段階から、ねらいを明確にしながら必要に応じて活用する段階へと、ステージが上がっている。今後は、個別最適化の学びと協働的な学びをどう一体的に充実させるのか、さらに研鑽していく必要がある。</p>
学校関係者評価結果	ICT教育が推進されていることは、日々子どもたちの様子を見ていても実感する。子どもたちの吸収力の高さには驚かされる。これからの教育に、英語教育が欠かせない。ICT教育と関連付けて指導していけば、教育効果が高いのではないかと。ぜひ、英語教育にも尽力してほしい。
最終改善方策	児童に育てたい資質能力を明確にした上で、「主体的で深い学び」の視点から授業改善を図る。そのための方策として、全教員が公開授業を実施したり、外部講師の活用を継続したりすることで、教師個々の力量を高める。また、他校に向けて公開研修会を開催し知見を得る機会とする。さらに、成果があがっているICT教育を深化させ、個別最適化の学びと協働的な学びを一体的に充実させていく。

本年度の重点に対する評価

本年度の重点	2	○学年・学級経営の充実…「豊かな心の育成」への取り組み
目標（評価規準）	人とのかかわりの中で、人権尊重の精神を涵養するとともに豊かな道徳性を養う。	
重点に係る現状 設定理由	基本的に相手を思いやれる優しい児童が多い。人とのかかわりの中で「自分の大切さとともに、相手の大切さを認められる」人権感覚や相手の立場や考え方を想像し理解しようとする態度を養うことにより、さらに思いやりをもって他者と接することができる豊かな心の育成を図る。また、教育活動全体を通してコミュニケーション能力の向上に努め、他者と協働することの価値に気づかせる。	

評価資料	評 価
教職員アンケート結果 (具体的方策ごと)	A～Dの4段階で評定したアンケートでは、B評価が大半を占めた。コロナ禍による人権侵害はほぼ見られないが、SNSを利用してのいじめが散見されるなど、時代に対応してより一層の人権感覚が必要だという認識は一致している。さらに、いじめの未然防止や早期対応について意識が高まってきているので、より実践的な指導が期待される。
各アンケート等の結果	保護者アンケートでは、児童指導の設問においてA Bの計が9割を越え、今年度は97%（A評定は63%）に達した。また、各学級の児童の様子に関して「ルールを守り協力している」99%（A評定は73%）「楽しそうに登校している」が96%（A評定は72%）という結果だった。おおむね高評価だが、一部C・D評価も顕在しているので、謙虚に受け止める必要がある。
自己評価結果 (見解と改善方策)	今年度は、エンパシー（他者の感情や経験などを理解する能力・共感力）に価値を置いた「コミュニケーション能力」を子どもたちに育てたい資質能力として掲げ、すべての教育活動において重点として位置づけた。仲間と協働して何かを成し遂げる経験を積み重ねることで自己肯定感を高め、他者を尊重する思いやりの心を育むことに尽力した。学校行事や年度末の学習発表会などにおいて仲間と協働する喜びを味わい、成功体験の中で自尊感情が高まっている姿が見られた。また、人権教育の充実が求められる中で、教職員がより強く意識して取り組んだことで一定の成果を上げたと考えている。
学校関係者評価結果	いじめが完全になくなることはないと思われるが、大切なのは早期発見早期解決だと思う。いろいろな手立てを講じて未然防止や早期発見につなげていることがわかって良かった。子どもたちが安心して学校に通えるように、引き続き丁寧な指導をお願いしたい。
最終改善方策	コミュニケーション能力を発揮し仲間と協働して課題解決するなど、自己肯定感を高める活動を継続して推進する。また、「思いやり」を道徳教育の重点とし教育活動全体を通して育成を図る。組織的な指導力、対応力を向上させるため、オンザシートミーティングと名付けた情報交換会を定期的で開催する。小規模校ならではの強みを生かし、全教職員で全校一人ひとりを育てるという意識を大切にする。心の悩みや家庭の課題に対してはSCやSSWと連携し必要に応じて医療や福祉、警察といった外部機関とも連携する。いじめ未然防止に努め、人権感覚を大切にした児童指導を充実させる。

本年度の重点に対する評価

本年度の重点	3	○地域・家庭・学校との連携…「地域教育力の活用」への取り組み
目標（評価規準）	「地域教育力」の活用を図り、豊かな教育活動を推進する。	
重点に係る現状 設定理由	栽培活動や海洋教育において、地域の環境資源を生かした豊かな教育活動が展開されている。今年度は、豊かな体験活動に加え、さらに児童が主体的・探究的・協働的に課題解決に取り組む教育活動を推進していく。また、学校の状況や特色ある教育活動のねらいを積極的に情報提供し、家庭・地域・学校がともに連携して子どもたちを育む風土を醸成していく。	

評価資料	評価
教職員アンケート結果 （具体的方策ごと）	A～Dの4段階で評定したアンケートで、多くの教員がB評価を選択している。ただ一部に、C・D評価を選択する教職員も見られた。これは、地域・保護者からの期待値が年々上昇していることに加え、担任以外の教職員が具体的にに関わりづらかったと感じたためであろう。次年度は、学びの質の向上とともに組織的に関われる教育活動を充実させていく必要がある。
各アンケート等の結果	保護者アンケートでは、家庭との連絡・相談の設問においてA Bの計が9割を越え、今年度は96%（A評定は59%）であった。また、海洋教育など学校の特色をいかした活動を問う設問では、100%（A評定は88%）という非常に高い評価をいただいた。自由記述欄にも地域を生かした教育や体験活動が素晴らしいとの声が多く寄せられた。
自己評価結果 （見解と改善方策）	本校の特色である海洋教育と野菜や花の栽培活動については、地域の協力を得ながら充実した活動を行うことができた。特に今年度新たに、諸磯藻場保全活動団体等の協力の下、釣り体験（荒天のため、体育館にて実施）やタッチプール体験を実施した事は、さらに活動が広がっていくことが期待できる意味でも有意義だった。これらの体験活動を探究的な学びとつなげられるようにさらに工夫していく必要がある。また、運動会や学習発表会など子どもたちの成長を実感していただく場を提供できた事は、連携を図るうえで効果的だった。
学校関係者評価結果	今年度は、特に体験活動の場が広がってきていることが感じられてよかったと思う。地域の方と話す機会があったが、大変やる気を感じられていた。地域の方々にも喜ばれる機会となっているので、本校ならではの特色ある教育をより一層充実して行ってほしい。
最終改善方策	地域の教育資源を生かした教育活動を継続して推進していく。体験学習にとどまることなく、探究型の学習を追求し積極的に地域に出てそこで生活する人々と交流を深める。総合的な学習の時間のあり方について研修会を開催し、授業づくりの質を高める。経験豊かなボランティア等の力を得ながら指導を充実させる。地域・関係機関と連携し児童の安全を守るなど、課題を解決していく。